

# 横浜市立大豆戸小学校 平成29年度 体育・健康プラン

## ～体育・健康に関する指導の全体計画～

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○学校教育目標の実現に向けて、家庭、地域、さらに社会との連携を深め、「歌声いっぱい、花いっぱい、笑顔あふれる大豆戸小」を目指します。</p> <p>・「歌声いっぱいプロジェクト」を通して、子ども達に豊かな学びを、「花いっぱいプロジェクト」を通してまなびのかんきょうづくりを保障し、「笑顔いっぱいプロジェクト」を通して子ども達の自己実現を目指していきます。</p> <p>ア) 子ども一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。</p> <p>イ) 健康な心身をつくるための生活習慣が身につくようにします。</p> <p>ウ) 「ひと・もの・こと」との豊かにかかわりを大切にする授業を通し、子どもの表現力を向上させます。</p> <p>エ) 異学年交流や体験的な活動を推進しながら、心豊かな子どもを育てます。</p> <p>オ) 地域・保護者・外部機関と連携・協力し、地域に愛着がもてる子どもを育てます。</p>	

#### (2) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

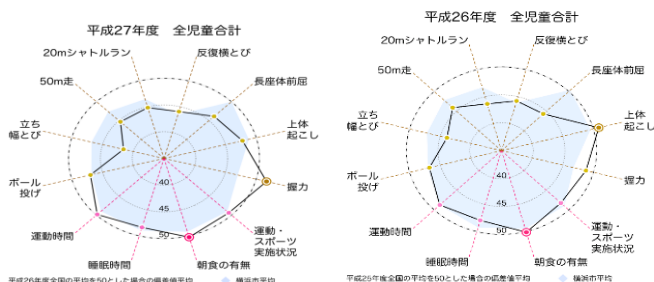
重点取組分野	取組目標	具体的取組
健やかな体	○一校一実践運動に継続的に取り組み、体力の向上を目指すとともに、基本的な生活習慣に関する取組を通して健康な身体と心を育む。	①運動委員会が中心となって取り組んでいる一校一実践、年2回の長縄大会や、「まめどっ子体力UPプロジェクト」の持久走や短縄等を継続的に行う。 ②体力テストの結果を基に、体力向上一校一実践の内容改善を図る。 ③学校保健委員会のテーマに向けた取組を全校で推進していく。
担当	体育部	

### 2 体育健康に関する実態把握

#### (1) 体育・健康に関する実態

- ・ほぼ全員が毎日朝食をとってきており、摂取率は非常に高い。その一方給食ではバランスのとれた食事の大切さを認識しているものの、好き嫌いがやや激しい面もある。
- ・地域に外遊びができる空間が限られており、運動量として不足がちである。スポーツクラブに入っている児童も多いが体力要素で得意・不得意がはっきりしている。また、スポーツクラブに入っている児童と入っていない児童の間でも体力の格差が大きくみられる。

#### (2) 体力の概要と要因の分析 (小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)



新体力テストの結果は、ボール投げ握力、上体起こしは横浜市や全国の平均に概ね近い結果であるが、立ち幅跳びや長座体前屈、50m走の結果は26年度、27年度とも全国や横浜市の平均を大きく下回る傾向がみられた。

### 3 体育・健康に関する具体的取組

#### 教科

##### 《体育科・保健体育科での取組》

- ・運動の特性に触れ、楽しみを実感しながら系統的に学習を積み重ねていくことができるよう、教材理解に努める。
- ・保健学習を中心として、体の成長や健康について“自分ごと”としっかりと認識して、自らの生活を振り返って改善できるようにする。

##### 《他教科での取組》

- ・家庭科では、食育との連携を図り、健康で明るい生活を送るために何に気を付けていけばよいのか指導する。
- ・生活科、理科では、生命尊重・環境保全の態度を育てる。

#### 道徳・特活・総合

- ・運動会などの体育的行事を企画し、充実した運営を目指す。
- ・保健委員会では児童自ら健康面での課題を挙げ、課題解決に向け主体的に活動し、健康的な生活を全校に呼びかける。
- ・給食委員会による、栄養バランスについての啓蒙活動を行う。
- ・安全指導では自ら危険を回避し、安全を確保できるよう共通理解のもと行う。
- ・栄養職員や「ぱくぱくだより」を活用した食の指導。
- ・「あいさつ運動」を通して豊かな関わりをもつことができるようにする。

#### 課外活動

- ・「健康手帳」「体力テスト」を活用し、健康や運動に関する情報を家庭に発信し共有。
- ・体育、健康安全に関する職員研修の充実及び情報の共有。
- ・学校保健委員会において、健康の保持増進に関する取組の推進。
- ・定期的にクラスで外遊びをする日の設定。

#### 平成28年度 大豆戸小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 まめどっ子体力UPプロジェクト

《ねらい》 年2回の長縄大会や持久走や短縄等を通して、用具操作の巧みさや持続して運動する体力を育む。

《内容》 ・運動委員会が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わうとともに、体力の向上を図る。  
・体力向上に向けて、休み時間等を利用した5分間の持久走の取組。

●指 標： ①取組後の振り返り

②生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」「1日の運動スポーツの実施時間」から検証する。